

障がい者雇用で 会社組織も人間主体へ 現場から見る「障がい者雇用」の今

「障がい者就労支援」ときくと、何だか面倒だなと思ってしまう経営者もおられるのではないのでしょうか？ しかし障がい者を雇用することは、企業にとって義務であると同時に、実は企業風土づくりにも大きなチャンスなのです。今回は就労支援を進める宇都宮市と、障がい者雇用に積極的な環境整備(株)、そして就労支援施設として大きな成果を出しているウエルビー(株)宇都宮センターに取材しました。



笑顔ではつらつと働ける 職場の大切さ

8月初旬の平日の午前中に、会報「天人」取材スタッフは、栃木県庁へ足を運びました。障がい者雇用の現場を取材するためです。

栃木県庁の建物のメンテナンス業務は、環境整備(株)が指定管理者として請負っています。同社は以前より積極的に障がい者を雇用し、取引先ときちんと話し合った上で現場派遣をおこなっています。そして、県庁でも1人の障がい者が元気に勤務されていました。

木村安希さん。精神に障がいを抱えな



栃木県庁のメンテナンスの現場で働く木村さんと、指導する野村さん

「障がい者就労支援」ときくと、何だか面倒だなと思ってしまう経営者もおられるのではないのでしょうか？ しかし障がい者を雇用することは、企業にとって義務であると同時に、実は企業風土づくりにも大きなチャンスなのです。今回は就労支援を進める宇都宮市と、障がい者雇用に積極的な環境整備(株)、そして就労支援施設として大きな成果を出しているウエルビー(株)宇都宮センターに取材しました。

「障がい者の人数を把握する場合、障がい者手帳がどれだけ交付されているかが、目安になると思います。宇都宮市の障がい者手帳の交付数は、年々増加傾向にあります。障がい者全体を見ると、市内在住の方は2万1千人を超えています」

平成23年度と27年度の状態を、数字で比べてみましょう。
身体障がい者は14、165人から14、994人に増えています。5・9%の伸び率です。
知的障がい者は3、111人から3、707人に増えています。19・2%の伸び率です。

精神障がい者は2、180人から3、021人に増えています。38・6%の伸び率です。

緒方課長の言葉のとおり、障がい者が



宇都宮市保健福祉部障がい福祉課 緒方秀徳課長と「わく・わくショップ」

宇都宮市の取り組みについて、重ねて緒方課長にうかがいました。
「市では『第4次宇都宮市障がい者福祉プラン』(平成26年度～29年度)の中で『就労を支援する福祉の充実』を基本施策に位置づけています。具体的な目標は『一般就労への支援の充実』『福祉的就労への支援の充実』を掲げ、取り組んでいるところです」

より効果的な 就労支援をめざす

宇都宮市では以前から積極的に障がい者雇用に取り組んできましたが、障害者差別解消法が施行された今年を節目の年として、さまざまなアプローチをおこなっているといいます。

年々増加しつつあることが分かります。もちろんこれは手帳交付数であって実数ではありませんが、現状を示す数字と捉えることができます。

続いて、障がい者を取り巻く労働環境についてうかがいました。

「平成25年に『障害者差別解消法』が制定され、今年4月から施行されました。これによって、障がい者の権利に関する国内法の整備が整ったといえるでしょう。この法律では、障がい者を理由として働くチャンス奪ってはいけないと定めています。ですから私も行政の役割として、法制度の趣旨を企業の方々にきちんと理解していただき、雇用促進につなげていかなければと考へ、自立支援グループの職員が中心となって積極的に動いているところです」

宇都宮市では以前から積極的に障がい者雇用に取り組んできましたが、障害者差別解消法が施行された今年を節目の年として、さまざまなアプローチをおこなっているといいます。

より効果的な 就労支援をめざす

宇都宮市の取り組みについて、重ねて緒方課長にうかがいました。

「市では『第4次宇都宮市障がい者福祉プラン』(平成26年度～29年度)の中で『就労を支援する福祉の充実』を基本施策に位置づけています。具体的な目標は『一般就労への支援の充実』『福祉的就労への支援の充実』を掲げ、取り組んでいるところです」

からも積極的に働く道を選び、約1年前に環境整備(株)に入社し、県庁に配属されました。

「明るくて、一生懸命で」と統括責任者の齋藤一明さんは、笑顔で話します。

「最初は不安もあったのですが、今はすっかり職場に溶け込んでいます。定年までここで働けたらいいな、と言っているくらいです」

木村さんを指導するのは、野村澄子さんです。

「教えた事はきちんとこなしますし、健常者よりまじめですよ」

指導のコツをうかがいました。

一般就労とは民間企業や行政などへの就労です。今回の特集では、こちらを取り上げます。もう一方の福祉的就労は福祉サービスの一環で、たとえば福祉施設などでの就労をさします。ただしこの二つが全くわかれてはいるわけではありません。就労支援のための福祉施設もあります。そのような場では、作業を通じて能力を高め、一般就労への移行をめざしています。

「就労移行を支援する福祉施設の役割は重要で、平成27年度の実績をみると、そうした施設から一般企業へ就労することができた障がい者は、全福祉施設就労実績の約半分、51・6%にのびりました」

そのため市でも、より効果的な就労支援をめざし、そうした施設の支援に力を注いでいるそうです。

「また、平成27年度には新しい試みとして、障がい者雇用を実施している企業と福祉施設の職員との意見交換会を実施しました。私どもも含めて、お互いの状況などの情報は、なかなか行き渡らないものです。こうした意見交換会を実施することにより、企業と福祉施設、そして行政との垣根が低くなり、より効果的な障がい者就労支援が可能になるよう、努力しています」

ちなみに、この意見交換会は、もともとと当所の環境・福祉委員会に緒方課長が出席し講話をしたことがきっかけだそうです。宇都宮市が設置している就労支援のための協議会には、同委員会の仲田委員長もメンバーになっています。こうした官民連携は、今後もよりいっそう強力になっていくと思われれます。

ようか。ゆつくり教える、やってみせる――

そういうところを心がけています」

「クライアント(県庁)も、喜んでますよ」と齋藤さんが補足します。

実際の現場で写真を撮影させていただきました。にこにこ笑顔が魅力的な女性です。けれども、野村さんの指導を受けたら、働く時は真剣そのもの。周囲の人たちに受け入れられている理由も分かったような気がします。

いま、障がい者の方々が社会に出て、積極的に職を求めるようになりつつあります。それは障がい者自身の望みであり、また国の施策によって受け入れる企業が増えていることにもよります。

そこで今回は、障がい者雇用と企業の現状についてまとめました。

企業の障がい者 法定雇用率は2・0%

企業経営者の方であれば「障がい者雇用率制度」という言葉は、ご存知でしょう。

「障害者の雇用の促進等に関する法律」において、企業や団体などが一定割合の障がい者雇用が義務づけられています。その割合を「障がい者の法定雇用率」といい、制度全般の総称が「障がい者雇用率制度」なのです。

この割合は民間企業と国や地方公共団体、都道府県の教育委員会などによって、少しずつ違ってきます。民間企業の場合は現在2・0%で、これは従業員が50人以上の企業が対象です。もちろん50人未満の企業が障がい者を雇用しなくてもいい、と

「これまで障がい者を雇用してこなかった企業や、雇用率が未達成の企業を対象とした、就労支援施設の見学会を実施したところ、大変好評でした。やはり現場を見ていただくことが理解を深める鍵ですね」

今年度の見学会は表1のとおりです。どなたでも参加可能です。申し込みについては宇都宮市保健福祉部障がい福祉課(電話028-6322229)にお問い合わせください。

平成28年度 障がい福祉サービス事業所見学会実施一覧表(表1)

No.	見学会実施日	事業所名/所在地	見学会内容	利用者数(H28.6.1時点)		
				身体	知的	精神
1	11月4日(金) 午後1時30分～2時30分	Konomi(このみ) 宇都宮市飯田町261	パン・焼き菓子製造・ビジネスマナー・その他	3	25	15
2	11月8日(火) 午後1時～3時	多機能型事業所チャレンジ・コミュニティ (就労支援A型事業所) チャレンジITセンター) 宇都宮市上戸野町94-27	PC作業	6	—	3
3	11月8日(火) 午後1時～3時	多機能型事業所チャレンジ・コミュニティ (就労移行支援事業所) ことと) 宇都宮市上戸野町94-27	PC作業・ビジネスマナー その他(就労講義、受託封入作業、グループワーク)	1	—	5
4	11月9日(水) 午前11時～正午	ACTION(アクション) 宇都宮市中戸野813	箱折り・袋詰め	2	20	15
5	11月9日(水) 午後2時30分～3時30分	バンダイナムコウィルみらいステーション 宇都宮市東宿郷2-4-3 宇都宮大層ビル1F	PC作業	1	1	10
6	11月11日(金) 午前10時30分～11時30分	ウエルビー宇都宮センター 宇都宮市池上町4-2 アソルティ宇都宮5階A	PC作業・企業実践 (グループ分けによる実践的なカリキュラム)	—	4	24
7	11月15日(火) 午前10時30分～正午	就労支援センター ひゅーまにあ宇都宮 宇都宮市江野町6-15 大立ビル4F	PC作業、事務作業	2	—	25
8	11月21日(月) 午前10時30分～11時30分	多機能型事業所コバン(B型) 宇都宮市花園2-8-6	箱折り・袋詰め、ハンガー除菌	5	9	9
9	11月24日(木) 午後1時～2時	ふくふく亭 宇都宮市東峰町3101番地60	弁当製造	—	1	14



環境整備株式会社勤務の鈴木克章さん。身体に障がいを持ちながら、それを感じさせない仕事ぶり、周囲からも頼られています

定着支援で、
就職した後もサポート
ウェルビー株式会社

障がい者就労移行支援事業所とは、実際にどのようなところでしようか。ウェルビー(株)は、就労移行支援事業を手がける企業で、関東地方を中心に全国に事業所を展開しています。宇都宮市にも大通りに面した池上町のビル5階に、一昨年の12月にオープンしました。

ウェルビー(株)宇都宮センターのスタッフは現在6人。通っているのは7月現在で28人です。6人のスタッフは運営や就労支援プログラムの作成、それに通所者への指導など、さまざまな業務をこなしています。

清潔な室内には、利用者のための机がならんでいます。そしてその横には、スタッフ



障がい者就労移行支援事務所
ウェルビー宇都宮センター

の机があります。「利用者の皆さんの様子を常に把握し、必要な時にはすぐにサポートできるんですよ」とサービス管理責任者の伊藤薫彦さんは言います。

支援カリキュラムも、スタッフが工夫しています。パソコン業務ができるようにタイピングソフトを使ったタイプ作業や電卓の使い方、コンセントやプラグの組み立てといった軽作業など、内容は多岐にわたります。

「実際の企業の現場作業を想定した訓練や、ほかのセンターと実際に電話をつないで電話対応訓練など、実践的なカリキュラムも取り入れています」

こうした訓練の成果が、実績にも現れています。昨年度の就労実績は8人。今年度はすでに6人の就労を達成しています。この数字は、市内の支援施設ではもっとも高いものだそうです。

実績の秘訣は何でしょうか。「利用者の皆さまはどなたも就労意欲の高い方ばかりですが、中には就労経験のない方やブランクのある方も多くいらっしゃいます。ウェルビー(株)では日々のさまざまな訓練を通して、ご自身の課題を明確にして



ウェルビー宇都宮センターの
サービス管理責任者 伊藤薫彦さん(右)と
スタッフで社会福祉士 佐藤あすみさん(左)

た教える側が先に立って模範をしめすことも重要です」

まさに、栃木県庁の現場で実践されていることです。

障がい者をお客さまのところへ送り出すことには、困難もあるのではないのでしょうか。

「もちろん、お客さまにきちんと説明し、御納得いただいた上で配属します」と斎藤社長はうなずきます。「私どものお客さまは、幸い皆さんきちんとご理解してくださいますし、積極的に歓迎してくださるところも多くあります」

「私どもの業務や顧客企業は、多岐にわたっていますので、業務内容も勤務環境も多種多様です。障がい者それぞれの事情に合わせた配属がしやすいことは、私どもの特徴かも知れません」と増田会長。「私どもで雇用しているのは、身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者と、障がいのほぼ全てにわたっています。さまざまな障がいをもつ人を受け入れても、その人にあった業務環境を提供できるからこそ、うまくいくという面も、あるかも知れませんが、しかし何より企業風土がしっかりできあがっていることが重要です。彼ら一人ひとりの障がいの状態に配慮し、それに合わせた適切な業務を与えることで、のびのびと仕事をしてもらっています」

ただし、と増田会長は続けます。「それは、ワガママを許すということではありません。障がい者であっても、社会人として守るべきところはきちんと守ってもらいます。それは彼らを『障がい者』という大

いきながら、その対処方法について一緒に考え、すでにお持ちの能力を最大限に発揮できるように支援しています。こうした日々の積み重ねが、実績に繋がっていると考えています」

また、伊藤さんは就職後のケアについても強調します。障がい者雇用は、障がい者だけでなく就職先の企業にとっても不安があります。そこで、就職した人と定期的に面談するほか、企業の担当者とも連絡を密にしているということです。こうした努力が、就職だけでなく定着率を高めることにつながっています。

「定着支援は、私どもの大きな特徴です。利用者にとっても企業にとっても、大きな安心につながっていると思います」と話す伊藤さん。対企業のケアも、重要な仕事となっています。

人間尊重の精神の大切さ
環境整備(株)

宇都宮市の環境整備(株)は、現在26人の障がい者を雇用しています。冒頭でご紹介した木村さんもその一人です。

「いちばん長い人は、もう36年勤続です。斎藤社長や私より長いんですよ」笑いながらそう話すのは、同社の増田武見会長です。同社は来年、創業40周年を迎えますから、そのほとんどの期間において障がい者雇用をおこなってきたといえます。斎藤靖社長は「企業の社会的責任を果

粋の存在ではなく、同じ会社で働く個性豊かな仲間だと考えているからこそです」

ここに、障がい者を受け入れる最大のメリットがあるのではないのでしょうか。すなわち、人間を尊重する企業風土を育てる大きなモチベーションになるのです。障がい者をしていねいに指導できるようにすれば、部下の育成のスキルもあがるでしょう。障がい者を個性ととらえ仲間と迎え入れられる職場の雰囲気は、いざという時の団結力、結束力を高めるでしょう。こうしたことが社員の人間力を高め、かつ社会的責任を尊重する文化を作り上げていくのではないのでしょうか。

環境整備(株)では、毎月11日を「クリーンデー」と定め、早朝から本社周辺の清掃活動を実施しています。また数々のチャリティ募金に協力したり、福祉施設へ物品を定期的に寄贈したりしています。このような社会貢献活動が自然におこなわれているのも、障がい者雇用から生まれた企業と社員の意識によるものかも知れません。

ちなみに、同社の公式サイト(<http://www.kankyousei.co.jp>)において社会貢献活動の紹介はしていますが、障がい者雇用はそこに含まれていません。多くの企業にとつて、障がい者雇用はまだ「福祉」「社会貢献」の色合いが強いのではないのでしょうか。しかし同社では、まさに人事であり通常の雇用の一部になっているのです。こうした企業が、今後さらに増えてくることで、障がい者に対する社会の見る目も変わってくるのだと思われれます。



環境整備株式会社
代表取締役
会長
増田 武見さん

環境整備株式会社
代表取締役
社長
斎藤 靖さん

環境整備株式会社
経営管理部門
総務課長
吉原 宏幸さん

たす、という意味でも障がい者雇用は重要です」と言います。

増田会長は「実際に障がい者雇用を進めている企業の方は実感できると思いますが、障がい者だから健常者より働けないということはありません」と言い切ります。

「それはもちろん、企業側が気を配る必要はあります。特に私どもの業務では安全対策が重要ですから、一般の人と比べて障がい者については、本人と業務内容とのマッチングを、ていねいにしなければなりません。しかし全般的には、多くの障がい者が健常者と変わらない働きをしていますよ」

「私たちだけでなく、現場レベルでの啓発活動も重要です」と話す斎藤社長。「仕

雇用だけではない、
障がい者支援

「うちの会社は規模が小さいし、業務も特殊。障がい者雇用は難しいけれども、何かできることはないかな」

そんなふうに見える経営者もおられるでしょう。そういう方は、障がい者が働く福祉施設から物品を購入してみてもいいのでしょうか。

宇都宮市保健福祉部障がい福祉課では「宇都宮市内障がい者支援施設等製品・業務カタログ」を発行しています。市内の支援施設で作られたさまざまな物品や食べ物などが掲載されたカタログを見とみると、ノベルティに使えそうな缶バッジやおしゃれなアクセサリ、おいしそうなパンやお菓子など、少量から購入できそうなものも多くあります。施設によってはある程度まとまったロットでの受注も可能です。

また、代表的な商品については、宇都宮市役所1階の製品販売所「わく・わくショップU」で実物を手に取ったり、購入や発注ができます。ホームページもあります(<http://www.wakwakeshopu.org>)。ぜひご覧ください。

また栃木労働局・各ハローワーク・栃木県の主催による「2016とちぎ障がい者合同就職面接会」が、県内各地で開催されます。宇都宮市では9月30日にホテル東日本宇都宮で、午後1時～4時の開催となっています。興味がある方は、ハローワーク宇都宮(電話028-638-0369)へ問い合わせしてみてください。